

# グリーン・ツーリズムによる農村地域への移住・二地域居住の促進に関する研究—石川県の農業・食の体験を事例に—

北村恒介 (生物資源経済学研究室)

## 1. はじめに

石川県には、奥能登地方を中心に過疎地域があり、これらの地域では人口減少によって地域社会の機能が低下している。本研究では、過疎化に悩む農村地域の活性化の手段としてグリーン・ツーリズム(以下、GT)<sup>1)</sup>に着目した。GTは、石川県内でも行われているが、農村地域の活性化に繋がっていない場合が多い。そこでGTによる地域活性化の可能性を探るために本研究では、宮崎(2003)<sup>2)</sup>のGT訪問者区分などを参考に第一のステップは農業・食の体験をすることであり、第二のステップは宿泊型の農業・食の体験をすることであり、第三のステップは農村地域へ移住・二地域居住をすることであるという仮説を立てた。

本研究の目的は、GTの普及を通じて農村への宿泊型の農業・食の体験希望者及び移住・二地域居住希望者を増やすことで過疎化が進む農村地域の活性化に繋げることである。この目的のために石川県のGTに関するアンケート調査を行い、石川県を事例として、次の三つの点を明らかにする。第一に、石川県のGT需要を把握する。第二に、農業・食の体験経験、宿泊型の農業・食の体験希望、農村地域への移住・二地域居留意向に影響を与える要素をアンケート調査対象者の個人属性、農業・食の体験需要などの中から探る。第三に、上述のステップアップの仮説を検証する。

## 2. 研究方法

石川県のGT需要や石川県の農村地域に対する人々の意識を把握するためにアンケート調査を実施した。アンケート調査は、2014年8月23日、24日に金沢市で開催された「いしかわ環境フェア2014」の来客を対象に行い、有効回答数は229通であった。まずアンケート集計結果から第一の目的の石川県のGT需要の分析を行った。次に第二、第三の目的のために表1に示すように従属変数を農業・食の体験経験、宿泊型の体験希望、移住・二地域居留意向とし、説明変数を性別、収入、GT認知度などとするモデルを設定した。モデルの分析にはロジット分析を用い、ここでのサンプル数は、使用した変数に無効回答を含む回答者を除いた143人であった。

## 3. 分析結果

第一の目的の石川県のGT需要に関しては、回答者の三割程しかGTを認知していないことが明らかになった。また体験した内容のほとんどが日帰り型の体験であり、日帰り型の体験希望者が多数を占めた。今後宿泊型の体験者を増やすためには、農業・食の体験で行きたいエリアに関する質問において奥能登エリアが112人(48.9%)で最も多かったことから、GTの認知度を高め、奥能登エリアでの宿泊体験を推進していくと良いと思われる。

次に第二の目的の農業・食の体験経験、宿泊型の体験希望、移住・二地域居留意向に影響を与える要素について、表1の分析結果より考察する。まず農業・食の体験経験のモデルでは、GT認知度、農村の食の魅力が有意になったことから、GTの入門段階である農業・食の体験経験に繋げるためには、GTの認知度を上げ、農村の食の魅力を宣伝していく必要

があると考えられる。次に宿泊型の体験希望のモデルでは、農家民宿での体験希望、農村の人の温かさに魅力が、有意になったことから、農村の人の温かさを感じられる農家民宿での体験を宣伝していくことで宿泊型の体験希望に繋がる可能性があると考えられる。そして移住・二地域居住意向のモデルでは、金沢エリア居住、奥能登エリアでの体験希望、宿泊型の体験希望が有意になったことから、金沢エリア居住者に対して、奥能登エリアでの宿泊体験をPRしていくことで移住・二地域居住に繋がる可能性があると考えられる。

最後に、第三の農業・食の体験経験が宿泊型の体験希望、農村地域への移住・二地域居住意向の順にステップアップするという仮説を表1の結果から検証する。まず宿泊型の体験希望に対して農業・食の体験経験は有意にならなかったため、農業・食の体験経験が宿泊型の体験希望にステップアップするとは言えないという結果になった。一方、移住・二地域居住意向に対して宿泊型の体験希望は、係数が正で有意となったため、宿泊型の体験希望が移住・二地域居住意向にステップアップする可能性があると考えられる。

#### 4. 結論

以上の結果から、農村地域への移住・二地域居住に繋げるためには、宿泊型の体験希望者を増やすと良いと考えられる。しかし、本研究の石川県の事例からも分かったように、宿泊型の農業・食の体験の経験者、今後の体験希望者は少ない傾向にある。そのため、今後宿泊型のGTを普及させていく上で、農業・食の体験に関するPRだけでなく、仕事や趣味としても利用できるGTをPRし、そういった体験ができる施設を充実させていくことが課題である。石川県では、珠洲市や穴水町で田舎暮らしの体験ができるが、あまり認知されておらず、利用できる空き家の数も少ないという現状がある。今後の課題として、田舎暮らしを体験したい人々のニーズを把握し、田舎での宿泊体験の増加に繋がる政策を考案していく必要があると考えられる。また自治体がGT普及を目的とした空き家の改修や情報の公開などを行うことで、田舎暮らしの体験ができる施設の利便性が高まり、今後農村地域への移住・二地域居住が増加することを期待したい。

表1. 農業・食の体験経験、宿泊型の体験希望、移住・二地域居住意向のモデルの推定結果

	農業・食の体験経験		宿泊型の体験希望		移住・二地域居住意向	
	係数	z値	係数	z値	係数	z値
切片	-2.900 ***	-3.452	-1.374 *	-1.791	-3.075 ***	-3.836
性別	-1.102 **	-2.055	0.857 *	1.665	0.242	0.526
収入	1.085 **	2.043	-0.194	-0.376	-0.025	-0.051
同居の最年少者が小学生以下	0.383	0.881	-0.284	-0.581	-0.344	-0.823
金沢エリア居住	-0.380	-0.814	-0.078	-0.152	0.800 *	1.694
GT認知度	0.529 **	2.325	-0.262	-1.083	0.216	1.013
フルーツ狩り体験希望	0.360	0.757	-0.827 *	-1.721	0.452	1.003
野菜の収穫体験希望	1.087 **	2.406	-0.319	-0.661	0.385	0.903
奥能登エリアでの体験希望	0.810 *	1.793	-0.535	-1.087	1.350 ***	3.144
加賀エリアでの体験希望	1.005 **	2.070	0.045	0.083	-0.023	-0.047
農家民宿での体験希望	-1.312 ***	-2.685	0.854 *	1.699	-0.298	-0.678
農村の人の温かさに魅力	-0.551	-1.063	1.316 **	2.572	-0.070	-0.147
農村の食に魅力	0.978 **	2.042	-0.439	-0.829	0.534	1.170
農業・食の体験経験	n/a	n/a	0.467	0.867	-0.651	-1.346
宿泊型の体験希望	0.763	1.353	n/a	n/a	1.081 **	2.138
移住・二地域居住意向	-0.721	-1.440	1.010 **	2.064	n/a	n/a
McFaddenの擬似決定係数	0.197		0.168		0.154	

注: \*\*\*, \*\*, \*は1%, 5%, 10%の水準で統計的に有意であることを示す。

- 1 農林水産省の定義によるとGTとは、「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」である。具体的には、野菜やフルーツの収穫体験、そば打ち体験などがある。
- 2 宮崎猛、「グリーン・ツーリズムの現代的意義と農村経済の内発的発展」『岐阜を考える』(財)岐阜県産業経済振興センター, 第115号, 2003年, pp.2-8